

私の男女共同参画社会へ 挑戦

男女共同参画社会は、一人ひとりの個性と能力が発揮できる社会です。このコーナーでは男女の枠にとらわれないことなく、自分の可能性に向かって輝いて生きる市民の方々をご紹介します。

夢は大きく 宇宙にはばたいて

日本宇宙少年団・さいたま支部

※日本宇宙少年団は全国に活動拠点がありません。さいたま支部はさいたま市宇宙劇場に事務局を置いて活動しています。



とかく理系といえば、「男性の分野？」というイメージを持つ人もいるのではないのでしょうか。しかし、科学の発達は、性別を問わず、子どもたちに無限の可能性を与えています。

日本宇宙少年団さいたま支部では、宇宙や天文をはじめ、通信やコンピュータなどに興味のある小学1年生から高校3年生までの子どもたちが多数参加し、様々な活動を行っています。

取材に訪れたこの日は、インテルサット分団の活動が行われており、講義の時間では「雷の発生のメカニズム」について、それぞれの体験から生まれた「なぜ?」「どうして?」といった疑問を出しあいながら、いきいきと学んでいました。また実践活動では、パソコンのホームページ作りのほか、実際に無線を使って通信を体験。無線の免許を持っている中学生、高校生が中心となって小学生に教えるなど、どの子ども目も輝かせながら共に学びあう姿がみられました。

これまでの活動で楽しかったことを聞いてみると、男女とも一番多かったのは、ラジオやワイヤレスマイクなどを作る電子工作。また将来は「宇宙飛行士になりたい(小学生・男)」「火星まで飛べるロケットの開発者(小学生・男)」「システムエンジニア(中学生・女)」「ナノテクノロジーの研究者(高校生・男)」など、思い思いの夢が聞かれました。宇宙という壮大なテーマを通して、子どもたちの未来は限りなく広がっています。



大切に伸ばしてあげたい子どもの個性



日本宇宙少年団
さいたま支部・
インテルサット分団長
岩田博之さん

日本宇宙少年団は、「ピース・スルー・スペース(宇宙を通しての平和)」を合言葉に、宇宙への夢の実現を通して、青少年の科学への探究心や創造性を育むことを目的として活動を行っています。昨今では、子どもたちの科学離れが叫ばれているようですが、ここでの活動の様子を見れば、そんな心配はいりません。また、「女の子でも活動についていけるでしょうか」という質問を受けますが、好きなこと、興味のあることに性別は関係ないと思います。むしろ壁をつくっているのは大人のほうではないでしょうか。大事なのは、子どもの個性を大切に伸ばしてあげること。どの子どももきっかけや学ぶ場があれば、いろいろなことに好奇心を持つものです。将来、毛利衛さん、向井千秋さん、そしてさいたま市出身の若田光一さんに続く宇宙飛行士が、この支部から誕生することを願っています。